

## 平成 30 年度第 1 回富山県いじめ再調査委員会 議事要録

- 1 日 時 平成 31 年 1 月 31 日 (木) 午後 15 時 10 分～16 時 40 分
- 2 場 所 富山県民会館 6 階 613 号室
- 3 出席者 委員 4 名 油本秋美委員、高坂愛理委員、永山くに子委員、吉本博昭委員  
事務局 荒井克博総合政策局教育・スポーツ政策監 竹内延和企画調整室課長  
矢谷義一県教育委員会小中学校課主幹 他 4 名

### 4 会議概要

- (1) 荒井総合政策局教育・スポーツ政策監挨拶
- (2) 委員長選出等
- (3) 今回の会議の公開について  
個人情報に係る事項等がなく、議長から会議の公開が提案され、出席委員全員が承認した。
- (4) 説明事項
  - ① 富山県におけるいじめの認知状況及び対策等について
  - ② 再調査等の全国的状況について
- (5) 意見交換 (主な意見)

#### 油本委員

いじめが現認された場合に、学校の内部で話し合いができるような雰囲気であること、また、教育委員会や相談所などの外部機関に相談できるような、風通しの良さが大切である。悩みを抱える本人自身が何で困っているのかわからず、まして周りの人に助けを求めることもできなくなっていることも多い。健康な状態にいる早い段階で関わられるような体制づくりができればいい。

#### 高坂委員

子どもたちにスマホが浸透する中、いじめ相談に LINE を活用するのは大変すばらしいことである。SNS 活用モデル事業の成果に期待する。全国のいじめ調査に関する事例では、第三者委員会の中立性や、遺族の願いとの相違、事実隠蔽、因果関係の判断など、様々な問題が表出している。いじめ調査においては事実と真摯に向き合い、冷静に考え、根本的な目的を見失うことの無いように努めていかなければならない。

#### 永山委員長

全国のいじめ再調査に関する報道からは、いずれも深刻な状況が伝わってくる。できるならば第三者調査が行われる以前の段階で、もっと的確に対応しておくのが一番良いのであるが、実際に調査するのが人間である以上、認識のずれがあったり、ボタンの掛け違いが起きたりして、その結果こじれていくこともある。調査においてはこういうところまで行くこともある、ということを私達は十分、認識しておかなければならない。

#### 吉本委員

学校や教育委員会が事なかれ主義で、何かあってもいつも「先生が悪い」としてしまうのでは先生の人権は守られないし、生徒指導もできない。いじめ調査において隠蔽は良くない結果を招くし、誰かに忬度すると碌なことにならない。事実は事実として受け止め、粛々と処理を行うことが大切である。いじめは大人の社会にもあることを子ども達は見ており、いじめ問題を学校教育だけでとどめるのは、現実問題としては難しい。